

長岡・栃尾地域

# そば打つ姿 笑顔広がる

## 避難の児童ら挑戦

長岡市栃尾地域でとれたそばで東日本大震災の避難者を元気づけようと、同地域の住民有志が5日、避難所の同市の老人福祉センター「皆楽荘」でそば打ち体験会を開いた。子どもたちが無邪気に生地をこねる姿に、周囲は笑顔に包まれた。

地元の「滝の下蕎麦打ち同好会」のメンバーら6人が開催した。参加した5人の子どもたちは、

そば粉にふりりのつなぎを混ぜてこねる作業で「手にくっつくー」「ふにゃふにゃして面白い」と話しながら熱中。その後、延ばした生地を真剣な表情で細く切り分ける。保護者らから拍手が上がった。

ゆで上がったそばは参加者の昼食となり、子どもたちは「おいしい」と満面の笑み。福島県南相馬市の小学1年、佐藤美

優さん(6)は「切るのが楽しかった」と話していた。難しくてぎとぎとしました。



そば打ち体験に熱中する避難所の子どもたち  
||長岡市上樫出